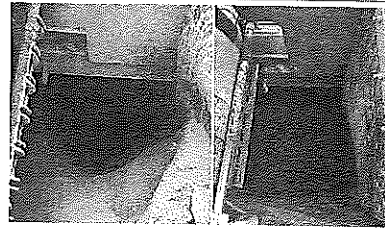


改良材
ニカ
工土軟土を短時間で固化
西日本高速会社が採用化学薬品メーカーのテク
ニカ合同(神戸市東灘区、
寺尾好太CEO)が最高経営
責任者(CEO)が開発した土質
改良材「CS-1」がこの
ほど、西日本高速道路関西
支社発注の「新名神高速道
路成合第一高架橋工事」に
採用された。地山の掘削で
発生する軟土に混合するこ
とで粒状に固化し、土砂ハ
ンドリングの作業効率が大
幅に改善した。同工事の掘削土砂は、ベ
ルトコンベヤーで仮置き場
に搬送し、混合機を用いて
改良を計画していた。実際
の掘削土砂は軟性で粘度が
極めて高く、バックホウや
ベルトコンベヤーに付着し作業効率が悪化。工程管理
を困難にしていた。
CS-1の性状は淡黄色
の粉体。土木工事で発生す
る建設汚泥などの軟土に少量添加し、短時間攪拌(か
くはん)するだけで中性で
固化できる。同工事ではCS-1を土
砂1立方メートルに対して約20kg
添加し、バックホウで攪拌。
4〜8分程度で付着性が無
くなり、粒状に固化した。
工事場所は新名神高速道
路の整備が進む八幡京田辺
〜高槻間(10・7km)のう
ち、西端の高槻JCT・IC
付近(大阪府高槻市成合)。
プレストレストコンクリー
ト(PC)高架橋を張り出
しで架設しており、橋梁区
間の前後の土工事も所掌し
ている。施工を大成建設・
極東興和・村本建設が担
当。同工事では土砂15万立
方メートルに対しCS-1を30
00kg使用する予定。CS-1でホッパー内の土砂
付着を改善(⑤→⑥)